

統合失調症の闘病記の テキストマイニングと伝記分析

古川奈都子『心を病むってどういうこと？ : 精神病の体験者から』の構造のテキストマイニング
いとうたけひこ(和光大学)

take@wako.ac.jp

小平朋江(聖隷クリストファー大学)

日本精神保健看護学会第20回総会・学術集会

聖路加看護大学 2010年6月19日-20日

口頭発表資料(10056)

【はじめに】

- イトウ・小平・井上・穴澤(2010)やバーカー&ブキャナンバーカー(2010)の指摘のように、浦河べてるの家の援助論や精神看護学におけるタイダルモデルなどの新しいアプローチでは当事者の紡ぐナラティブに注目している。
- 看護学教育および看護師の知識創造にとって闘病記の意義が大きいとして、ナラティブ教材としての闘病記の有用性を強調した小平・イトウ(2010)を受け、本研究では統合失調症当事者の代表的な闘病記を取り上げ、体験と語りの構造を明らかにし、精神保健看護学と看護援助への示唆を得たい。

【目的】

- 闘病記は自伝であり伝記の一種なので、伝記分析の方法(西平, 1996)のうちの個別分析とテキストマイニングにより闘病記の構造を明らかにする。
- そして、精神看護での看護教育や卒後教育や自己研鑽の教材としての闘病記の意義を明らかにする。
- 西平直喜 1996 生育史心理学序説:伝記研究から自分史制作へ 金子書房

【研究方法】

- 【研究対象】古川奈都子(2001)『心を病むってどういうこと?』ぶどう社。著者は企業教育研究会(2008)の偏見低減教育にも協力している著名な当事者である。

【研究方法】対象となる闘病記の内容や意味の質的分析(個別分析)をおこなうとともに、

- テキストの量的分析を、Text Mining Studio Ver.3.1を用いて、
- 単語頻度分析で出現回数、
- 対応分析で各章と頻出単語との関係、
- 特徴語分析で各章に特徴的な単語の抽出をおこない、
- 闘病記の構造と特徴を質的・量的に明らかにする。

【結果】①闘病記の内容の要約

- 「はじめに」では「心の病を持つ人のことを知ってください」と題して、本書の執筆動機が精神分裂病(以下、統合失調症)を持つ人への理解をしてほしいことが述べられている。
- 第1章「私から、あなたへ」では、精神障害はさげすむものではなく、特別なことでもないということが「寛解」をキーワードに述べられている。
- 第2章「病気になれてよかった」では著者自身の生育歴と発病経験と現在までの経過が紹介されている。
- 第3章「こんなふうにしてもらえたら」では、自分の経験を基盤に統合失調症を持つ人の弱さや苦労の具体例とそれに対する対応の仕方について述べられている。
- 第4章「『あなた』と『わたし』の関係で」では、家族や周囲の人、さらには社会がどのように統合失調症の人々を考え関係を取り結んで欲しいかが述べられている。
- 「おわりに『みんな、いっしょ』」ではお互いの違いを認めながらも一人一人の人権を尊重することの重要性が述べられている。
- 「あとがき」ではこの本を書いた経過と書いて良かったという感想が述べられている。

【結果】③各部分に特徴的に出現する 単語を比較するための特徴語分析

- はじめには、「優しい」「仲間」「人たち」など、同じ病いの仲間のことを知って欲しいという表現が見られた。
- 第1章では「子」「病気」「障害」「寛解」など、過去を振り返り現在を肯定している特徴語がみられる。
- 第2章では「母」「町」「学校」「友人」「結婚」など生育歴に関する単語が多い。
- 第3章では「妄想」「身体」「幻聴」など他の人には理解しづらい体験についての単語が特徴的である。
- 第4章では「能力」「家族」「障害者」「偏差値」などの単語が多く、家族や社会へのメッセージの表現が特徴的である。
- おわりにとあとがきでは、「病気」「分裂病」「体験」など病気と共生している自分のことを語る表現が目立った。

【考察】①ナラティブ教材としての有効性

- 本書は本人の苦しみの記述だけでなく、自分自身のあゆみを振り返りながら病気とともに歩む自己を肯定するとともに、非当事者の読者に当事者の苦労を理解して欲しいというメッセージに溢れている。
- このような語りの内容は、看護学生の教育および看護師の自己研鑽にとっても、重要なナラティブ教材(小平・いとう2010)として貴重である。

●小平朋江・いとうたけひこ 2010 闘病記などのナラティブ教材の種類と意義:メディアの違いに着目して
第20回日本精神保健看護学会学術集会 10020

【考察】②闘病記の意義＝ 「生きにくさ」の間接的体験

- 八木(2009)は精神病理学の基本は当事者の語りから出発するべきであるといい、闘病記の精神医学における根源的な重要性を指摘している。
- 闘病記は当事者だけでなく環境側の問題も含めた「生きにくさ」の体験(武井,2005; 2009)の実例が豊富であることが個別分析から明らかになった。

【考察】③闘病記の位置づけ

●小平朋江・いとうたけひこ 2010 闘病記などのナラティブ教材の種類と意義：メディアの違いに着目して 第20回 日本精神保健看護学会学術集会 より

Interactive knowledge-creating

- 精神看護において、
- 臨床場面での直接的ナラティブ体験とともに、
- 闘病記を読むことを通して得られる、看護師の立場から離れた間接的ナラティブ体験の持つ意味が大きい。

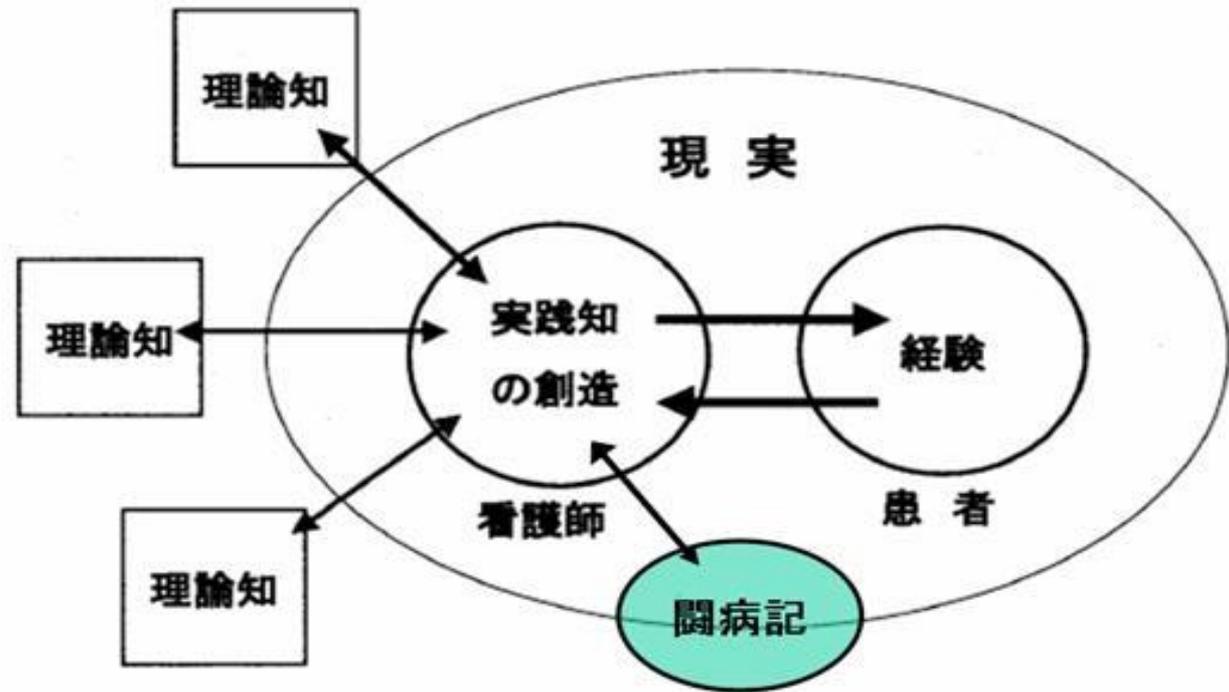


図1 経験を知に変換する「知識構造」図

(中山, 2004) への闘病記の位置づけ

【文献】

- いとうたけひこ・小平朋江・井上孝代・穴澤海彦 2010 タイダルモデルと浦河べてるの家：英国と北海道から生まれた精神障害者のためのコミュニティ的人間関係援助 和光大学現代人間学部紀要, 3, 197-207.
- 企業教育研究会(2008)「こころの病気を学ぶ授業」の開発 企業教育研究会
- 小平朋江・伊藤武彦 2008 精神障害の闘病記：多様な物語りの意義 マクロ・カウンセリング研究, 7, 48-63.
- 小平朋江・伊藤武彦 2009 ナラティブ教材とはなにか：医学・看護学教育における「語り」の意義 マクロ・カウンセリング研究, 8, (印刷中)
- 西平直喜 1996 生育史心理学序説：伝記研究から自分史制作へ 金子書房
- 武井麻子 2005 精神看護学ノート(第2版) 医学書院
- 武井麻子 2009 この本で伝えたいこと 武井麻子(編) 系統看護学講座 専門分野II 精神看護学1 医学書院(pp.1-14)
- 八木剛平 2009 手記から学ぶ統合失調症：精神医学の原点に還る 金原出版